

技術リスクコミュニケーション論

授業科目名	技術リスクコミュニケーション論	単位数	2単位
英語標記	Decision-Making for Managing Health, Safty and Environmental Risks associated with Technology and Its Use		
授業コード	360119		
受講人数	50人程度		
担当教員	平川 秀幸		
対象	全研究科大学院生、社会人（5名程度）		
開講時間等	第1学期＝隔週水曜6・7限		
開講場所	中之島センター		
キーワード	高度技術社会、意思決定、リスクコミュニケーション、参加型手法		
授業の目的	本講義では、技術リスクを「ある技術の採用とそれに付随する人間の行為や活動が、人間の生命の安全、健康、財産及びそれらを取り巻く社会環境（システム）に望ましくない結果をもたらす可能性」と定義する。その上で、個人・組織・社会が、化学物質や巨大技術などの開発利用に伴うリスクを管理し、係る意思決定をするとともに、多様な関係者の間でコミュニケーションを行う際に認識・考慮しなければならない重要事項や、普段見落とされ易い事項について、具体的な事例紹介などを交えながら講義する。また、演習的な要素も取り入れ、(1)個人・組織・社会が技術リスクを適正に管理するために、どのように意思決定やコミュニケーションを行い、協働していくべきか、(2)そのためにはどのようなツールが役に立つか、などについて受講生と共に考える。 本講義を通じて、受講生が(1)複雑な事象に直面したときに、リスク管理に係るより質の高い意思決定（リスク判断）を行い、(2)その意思決定の行使を阻害する組織的・社会的要因に対して適切な判断・行動をし、(3)リスク管理のための個人・組織・社会のコミュニケーションと協働を促進する仕組みの制度設計・運用ができるようになるための、“センス”を身に付けることが本講義の目標である。		
講義内容	1. 序論（2回） 高度技術社会に顕在化するHSE リスク問題の様相と主要因。なぜ技術リスクへの対応が必要なのか。リスク問題への対応に求められる基本的事項の整理。 2. 質の高い意思決定（6回） 2-1. 意思決定はなぜ難しいか 2-2. 個人レベルでの意思決定 2-3. 集団・組織レベルでの意思決定 2-4. 社会レベルでの意思決定 3. リスク管理のための個人・組織・社会のコミュニケーションと協働（6回） 3-1. リスクガバナンスに求められるもの（2回） 3-2. 個人・組織・社会のコミュニケーションと協働の促進の仕組みと課題（4回）		
教科書	谷口武俊『リスク意思決定論』大阪大学出版会、2007		
参考書	多田洋介『行動経済学入門』日本経済新聞社、2003 藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』東京大学出版会、2005		
成績評価	出席とレポート内容による。		

高度科学技術社会に生きる私たちは様々なリスクを抱えており、これらのリスクに社会として適切に対応していかなければ持続的な発展は望めない。リスクへの対応に向け、社会の構成員である個人々人を始め、企業や行政などが協働しつつ、それぞれが応分の役割を果たすことが求められるが、なかでも科学技術者や技術を管理・運営する人たちを含む、いわゆる専門家といわれる人たちの役割は重要性を増している。

科学技術の進展により知の生産量は急激に増加しているが、同時に専門分野がきわめて細分化されてきているため、科学技術の全体像を把握することが困難となっている。このような状況を考えると、技術リスク問題の意思決定において、どの専門家の判断を選択するかはたいへん難しい問題となる。しかしその選択を誤ると、社会にとって大きな災害やリスクが顕在化するということも否定できず、その場合には、それがまた科学技術への不信を増幅させることにもなり得る。

リスクを“ある技術の採用とそれに付随する人間の行為や活動によって、人間の生命の安全や健康、資産ならびにその環境（システム）に望ましくない結果をもたらす可能性”と定義し、化学物質や大規模なハザード源を内包する巨大技術システムや環境共生技術などの開発・利用に伴うリスクを管理していく上での意思決定や、コミュニケーションと協働において認識しておくべき重要かつ基本的事柄を中心として取り上げる。

決定はそれが具体的に実行されなければ、単なる善良な意思あるいは願望でしかない。したがって、意思決定とは、リスクを低減するために、必要な措置を確認し、評価し、選択し、実施に移すプロセス、すなわちリスク管理の核心である。本講義では、個人、集団・組織、そして社会というそれぞれのレベルにおける意思決定と、それに伴う関係者間のコミュニケーションや協働を対象として論じる。

リスク管理とは Forward thinking（前向き思考）であり Responsible thinking（責任ある思考）であり Balanced thinking（バランスのとれた思考）であることを理解されることを期待する。